

民博歴博合同研究会（第18回月例会）

平成30年3月8日に連携拠点である国立歴史民俗博物館と合同で研究会を開催いたしました。歴博側5名、民博側4名の合計9名が出席しました。

歴博の松木武彦・教授が企画展示「世界の眼でみる古墳文化」の解説、および「北東ユーラシアにおけるモニュメントの展開と日本列島の古墳」と題する発表を行いました。世界各地の墳墓型モニュメントと比較しながら日本列島の古墳の変遷を考察し、初期国家の形成との関連を論じました。古墳という言葉の定義や労働集約システムの可能性にまで議論に及びました。

また、民博拠点研究員の辛嶋博善・特任助教が「モンゴルにおけるモニュメント」と題して発表を行いました。モンゴル国におけるモニュメントとして、像や建造物、墳墓などを対象に、現代から社会主義を経て過去へとさかのぼりました。材質に関する質問のほか、巨大化という点で日本の古墳との共通性も指摘されました。

